長崎の辰年にちなむもの

本会会長　原田博二

新年明けましておめでとうございます。

本年は、辰年、それも甲辰(きのえたつ・こうしん)の年です。この甲辰というのは、「えと」とも呼ばれる干支（かんし）、すなわち十干十二支の組み合わせからなっています。

この十干と十二支を組み合わせると、１番最初が甲子(かっし)、２番目が乙丑(おつちゅう)、３番目が丙寅(へいいん)と続き、最後の６０番目の癸亥(きがい)まで全部で６０種にもなります。ちなみに甲辰は、４１番目です。

これを年にあてれば、甲子の年から癸亥の年まで６０年で一巡するのです。だから還暦というのは、例えば、今年、甲辰の年に生まれた人は、６０年後に再び甲辰の年が回ってくることから還暦といい、長寿を祝うのです。

辰年に長崎で起こった事件

江戸時代の辰年、長崎では三つの重大事件が起こっています。一つ目は、１６７６年の辰年のこと、旧暦１月、長崎代官末次平蔵茂朝とその一族は密貿易の疑いで捕縛され、旧暦４月、平蔵は隠岐に、その母長福院は壱岐にそれぞれ流され、初代平蔵より４代にわたって権勢を誇った、さしもの末次家も断絶に追い込まれました(末次平蔵事件)。二つ目は１７００年の辰年のこと、旧暦１２月１９日、鍋島家の家臣深堀三右衛門、柴原武右衛門と町年寄上席高木家の仲間又助との大音寺坂での些細な喧嘩は、事件に発展、２０日鍋島家の家臣２１人は西浜町の高木家に討ち入り、主人彦右衛門らを討ち果たしたので、流石の高木家も断絶に追い込まれました(深堀騒動)。三つ目は１８０８年の辰年のこと、旧暦８月１５日、イギリス軍艦フエートン号は、オランダ船に変装、長崎港口に投錨。しかし、オランダ船が港内に碇泊してないとわかると、水と食料を要求、さもなくば長崎を砲撃すると威嚇。烈火のごとく怒った長崎奉行松平図書頭ではあるが、いかんともできず、ついには水と食料を与え、１８日未明、自刃、責めを負いました(フエートン号事件)。

辰年生まれの長崎の著名人

長崎の著名人のなかで、南蛮ころび伴天連フェレイラこと沢野忠庵は１５８０年の、わが国に黄檗禅(宗)を伝えた唐僧隠元は１５９２年の、その弟子で崇福寺の開山となった即非は１６１６年の、書家として全国にその名をとどろかせた唐通事の大御所林道栄は１６４０年の、阿蘭陀通詞で吉雄流の医師でもあった吉雄耕牛は１７２４年の、オランダ商館医のかたわら日本の研究を行ったシーボルトは１７９６年の、長崎南画の大家で、鉄翁、木下逸雲とともに長崎三画人と称された三浦梧門は１８０８年の、わが国缶詰製造の元祖と称された松田雅典と長崎でオランダ医学を修め、初代の軍医総監となった松本良順は１８３２年の辰年というように、全て辰年の生まれでした。

このなかで沢野忠庵、隠元、即非、林道栄は天才肌、吉雄耕牛、シーボルト、三浦梧門、松田雅典、松本良順は、学究型もしくは努力型でしょうか。

今年の長崎くんち踊町、五嶋町の龍踊　大田由紀撮影

龍にちなむことわざ

龍にちなむことわざもいろいろとあるようですが、たとえば「龍吟(ぎん)ずれば雲起こる」は英雄が行動を起こすと大衆がこれに従うこと、「龍頭(りゅうとう)蛇尾(だび)」は頭が龍で尻尾は蛇のこと、すなわち初めは良いが、後は尻すぼみ、後が続かないこと、「龍に翼」はまさに鬼に金棒、怖いものなしのこと、「龍門の滝登り」は出世、すなわち大成功すること、「龍馬(りゅうめ)の躓(つまず)き」はどんな才人でも失敗することがあること、「龍を描き狗(いぬ)に類す」は物事を学んで遣り損なうこと、凡人が才人の真似をして反って失敗することなどです。

そこで本年は、龍吟ずれば雲起こるの譬(たとえ)のように、所詮は凡人？の集まりですが、それでも先ず行動すること、龍馬の躓きのように才人だって失敗するのですから、恐れることはないのでは、龍に翼のように一致団結すれば、龍門の滝登りのごとく、まさに大成功も夢ではありません。しかし、くれぐれも龍頭蛇尾と誹(そし)られぬよう、そして龍を描いて狗に類すにならぬよう慎重にものごとを判断しましょう、こうしん(甲辰)の年ですから、ぐらつかない心、すなわち「こうしん(恒心)」こそが肝要なようです。

それでは、改めまして本年もどうぞ宜敷お願いいたします。